

第10回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成29年1月31日（火）16:15～18:15
2. 場所：中央合同庁舎8号館5階共用D会議室
3. 出席者
 - (1) 構成員
平澤座長、相澤委員、伊集院委員、大島委員、岡崎委員、西澤委員
 - (2) 内閣府
榎谷沖縄振興局長、渡部審議官、水野総務課長、池上事業振興室長、水本企画官、山下専門官、茂木専門官
4. 議事要旨
 - 議事1 OISTの新学長について
 - 議事2 平成29年度政府予算案について
 - 議事3 平成29年度事業計画案について
 - 議題4 その他

事務局より資料について説明がされた後、構成員から以下のような主な意見があった。

- POCプロジェクトの取組を加速させるには、採択から最終出口までの一連の流れをシステムチックに構築し、その上で、要所ごとに、評価基準、評価方法、支援内容等を明確にすることが必要ではないか。特に、外部のベンチャーキャピタリスト等による投資を得られる研究か否かといった観点を、判断基準に取り入れることが重要である。
- 特許権の取得、維持に当たっては、費用対効果を検証することが重要である。
- 事業計画（案）には、施設の外部利用の促進、透明性のある予算配分、ファンディングの責任部署の明確化など、期待できる取組が多いと感じる。引き続き、積極的に取組んでいただきたい。
- 共同研究を拡大するのであれば、利益相反、安全保障貿易管理、営業秘密管理等の仕組を整備することが必要である。
- あと数か月もすれば、初めてOISTから卒業生が出ることから、OISTの知名度向上を図るため、この機会を活用する方策を検討する必要がある。
- 優秀な学生のリクルートのためには、OISTがどのような教育コンテンツを提供できるかを明らかにし、外部へ示すことが必要ではないか。
- POCプログラムに学生を参画させることにより、製品化までの過程を実体験できる機会を提供できれば、非常に貴重な教育コンテンツになるだろう。

- ラボローテーションは、視野の広い研究活動を身に着けるために必要なことである。引き続き、積極的に取り組んでいただきたい。
- 学位審査制度のプロセスを明確に示すことはできないか。また、ロールモデルを目指すのであれば、海外大学のように、学位論文の評価を選択した専門領域の能力だけで評価するのではなく、体験した研究全体を審査し学位を授与するプロセスを構築できれば、国内の他大学へ大きなインパクトがある。
- 競争的資金の獲得を拡大するならば、科研費以外の研究助成金の獲得に向けて、助成金の特徴をよく理解して組織的に申請することが重要である。また、そうした助成金を獲得するためには、個別の研究領域でリーダーシップを取る必要がある。
- 大型の研究開発プロジェクトは、獲得額の増加に大きく貢献するものだが、基礎研究を目指す若手研究者の育成においては、個人で獲得する科研費等の競争的資金が重要である。
- OIST の国籍の多様性を活かし、海外の研究機関等との共同研究を推進するなど、国際的競争資金の獲得に向け、引き続き検討を進める必要がある。
- 大型資金を獲得した場合、日本の大学院では、学生を労働力として使う傾向にあるという課題がある。OISTにおいて大型資金の獲得を推進するのであれば、学生が単なる労働力とならないような方策を、ポスドクの活用方法を含め検討していただきたい。

以上